

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」
 における各職域プロジェクトの取組状況について（3月14日時点）

学校・団体名 大阪保健医療大学

No.	4-②
事業名	障害者スポーツ分野における障害者医療・福祉・教育専門職の人材育成システムの開発プロジェクト
分野	医療・福祉・健康（健康）
区分	障害者スポーツ
取組の目的	<p>人材養成の対象者は、スポーツに関心のある障害者医療・福祉・教育分野の若手専門職（就業後5年以内）であり、それぞれの養成段階で修得した養成カリキュラムにおいて、障害者支援に必要な医療や福祉、教育に関連した知識・技術・技能の基礎を既にある程度は身につけている者である。</p> <p>本中核的専門人材の達成目標は、障害者が生涯にわたってスポーツへ参加できるよう、障害特性やライフステージ、スポーツの目的などに応じて支援するために必要な実践的な知識と技術を身につけることである。</p> <p>本事業の目的は、それを修得するために全国的な標準モデルカリキュラムを開発することである。</p> <p>平成25年度は、大阪府内において今まで（又はしばらく）スポーツをする機会がなかった20～50歳代の成人知的障害者や精神障害者、身体障害者へ市民スポーツとしての参加を目的とした支援に必要な知識・技術の達成度評価基準Ⅲまで（Ⅰ：関心がある。Ⅱ経験がある Ⅲ助言があれば実践できる）が修得できるモデルカリキュラムを開発した。</p>
事業の実施体制	<p>実施委員会 分科会代表者会議で取りまとめられた各分科会の重要な事項を審議する。</p> <p>各分科会取り纏め(分科会代表者会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育カリキュラム開発分科会 モデルカリキュラムの実践を通して、カリキュラム内容を再検討する。 ②協力機関連携分科会 モデルカリキュラムを実践するために必要な関係機関とのネットワーク構築の手助けを行う。 ③効果判定分科会 効果判定パッケージの開発や検証方法を行う ④ニーズ調査分科会 障害者スポーツに関するニーズ調査を行う。

平成 25 年度に
おける実施状況
及び今後の予定

1. 会議

実施委員会

- ・第 1 回 8 月 2 0 日
 - ①平成 2 5 年度本事業委員の紹介
 - ②平成 2 5 年度本事業計画の説明
 - ③各分科会スケジュールの検討
 - ④講義と演習の検討
 - ⑤体験学習①派遣型スポーツ教室の検討
 - ⑥体験学習②派遣型スポーツ教室の検討

- ・第 2 回 9 月 2 4 日
 - ①講義と演習の検討
 - ②体験学習①派遣型スポーツ教室の検討
 - ③体験学習②派遣型スポーツ教室の検討
 - ④効果判定受講生受講前評価の検討
 - ⑤波及効果の検討

- ・第 3 回 1 0 月 1 5 日
 - ①講義と演習の振り返り
 - ②体験学習①派遣型スポーツ教室の振り返り
 - ③体験学習③障害者スポーツ教室運営実習の検討
 - ④ニーズ調査高次脳機能障害①～⑩の検討
 - ⑤ニーズ調査発達障害アンケート調査の検討
 - ⑥スポーツ大会チラシ印刷の検討

- ・第 4 回 1 1 月 1 2 日
 - ①体験学習①②派遣型スポーツ教室の振り返り
 - ②体験学習③障害者スポーツ教室運営実習の振り返り
 - ③体験学習④障害者スポーツ大会企画・運営実習の検討

- ・第 5 回 1 2 月 1 7 日
 - ①体験学習④スポーツ大会企画・運営実習の振り返り
 - ②報告会の検討
 - ③効果判定受講生受講後評価の検討
 - ④波及効果の検討

- ・第 6 回 2 月 1 8 日
 - ①平成 2 5 年度本事業成果報告
 - ②平成 2 6 年度の本事業計画の検討

※実施委員会開催へ向けて分科会代表者会議を全 1 5 回（随時）実施した。

2. 調査

(1) 訪問調査

調査内容：現在重度コミュニケーション障害者として我国で注目されている高次脳機能障害領域の専門職へ高次脳機能障害者（身体障害者及び精神障害者）のスポーツ取組状況とニーズについて訪問によるインタビュー調査を行った

調査対象：全国の脳損傷友の会関連団体から紹介された福祉施設で本調査への協力が得られた専門家計 2 0 名

経過・結果：以下の施設で調査を実施した。
テープ起こし、データ入力業者へ委託した。
2月1日に委員でデータ分析をした。

- 10月17日・18日（東北）：就労支援センターほっぷ、生生学舎
アダージョ
- 10月21日（関東）：クラブハウスすてっぷなな、高次脳機能障害者
ピアサポートセンタースペース・ナナ
- 10月28日（中国）：工房かたつむり、クラブハウスシェイキング
ハンズ
- 10月28日（東海）：ワークセンター大きな木
- 11月1日・2日（四国）：ファミリー高知、高知青い空
- 11月7日（関西）：工房羅針盤、工房第二羅針盤
- 11月21日・22日（北海道）：クラブハウスコロポックル、コロ
ポックルレデイス
- 11月27日・28日（九州）：地域活動支援センター「翼」、工房
きらら
- 12月6日・7日（中部）：みずほみかんやま、かけはし西岐阜、
高次脳機能障害サポートセンター笑い太
鼓、「笑い太鼓」高次脳機能障害支援セン
ター
- 12月12日（関西）：WAKABA

(2) 郵送調査

調査内容：現在重度コミュニケーション障害者として我国で注目さ
れている発達障害領域の専門職へ発達障害者（知的障害
者及び精神障害者）のスポーツ取組状況とニーズについ
て郵送調査を行った

調査対象：全国の発達障害支援センターで勤務する専門家。

経過・結果：88施設へ調査票を郵送、回収、データ入力を業者へ
委託し、分析を1月5日に委員で行った。

3. 実証

(1) モデルカリキュラム開発

方法：昨年度開発した教育カリキュラムをモデルカリキュラムとし
て新受講生（今年度から対象を拡大した）へ実施し、CUDOBAS
方式を参考にして、カリキュラムの修正（開発）を行った。
また、昨年度は明確にできなかった達成評価基準も明確に設
定した。

進行状況：

講義と演習 8h×2

9月28日・29日 大阪保健医療大学（8h×2）

体験学習①派遣型スポーツ教室（アセスメント実習）4h

10月2日 ワークセンター飛行船

10月3日 ぴあウォーク・ヨコタ

11月6日 風の子そだち園

体験学習②派遣型スポーツ教室

（小規模障害者スポーツ教室見学実習）4h

10月16日 南津守さくら公園スポーツ広場
10月23日 マグスミノエ
10月30日 メッセ天下茶屋

体験学習③障害者スポーツ教室運営実習
(中規模障害者スポーツ教室運営実習)

11月10日 J-GREEN堺 6h

体験学習④障害者スポーツ大会企画・運営実習
(大規模障害者スポーツ大会企画運営実習) 6h

11月24日 長居第二陸上競技場

報告会 講義 5h

12月21日 大阪保健医療大学

(2) 効果判定

方法：受講生へモデルカリキュラム受講前後に質問紙による評価を行った。その結果に基づき、モデルカリキュラムの改定及び達成評価基準の設定を行った。質問紙は、自己評価、スポーツに関する意識調査、健康感である。

経過・結果：データ入力業者へ委託した。

入力されたデータに基づき、2月9日に委員でモデルカリキュラムの改定及び達成評価基準の設定を検討し合った。

(3) 波及効果

方法：協力者(障害者)の体験学習へ協力したことによる変化(効果)について標準化された評価表を用いて評価を行った。結果は、波及効果を検証するだけでなく、本カリキュラムの効果判定モジュールの開発にも活用した。

経過・結果：

事前訪問調査

10月2日	ふれいすB	協力者2名
10月8日	風の子そだち園	協力者3名
10月22日	ドマーニ	協力者2名
10月29日	東成育成園	協力者15名

協力中調査① 派遣型スポーツ教室

10月3日	びあウォーク・ヨコタ	協力者2名
10月23日	マグスミノエ	協力者2名
10月30日	メッセ天下茶屋	協力者15名
11月6日	風の子そだち園	協力者3名

協力中調査② 合同スポーツ教室

11月10日	J-GREEN堺	協力者22名
--------	----------	--------

協力中調査③ スポーツ大会

11月24日	長居第二陸上競技場	協力者22名
--------	-----------	--------

事後訪問調査

1月21日	風の子そだち園	協力者3名
-------	---------	-------

	<p style="text-align: right;">NPO法人ドマーニ 協力者2名</p> <p>1月29日 ふれいすB 協力者2名</p> <p>2月4日 東成育成園 協力者15名</p> <p>データ入力業者へ委託した。 うち、12月23日に協力中調査データの輸入はビデオ解析 (高度な知識・技術)が必要だったため、委員が実施した。 2月11日に委員でデータ分析を行った。</p>
<p>職域プロジェクト とコンソーシアム の連携状況等</p>	<p>①第1回コンソーシアム実施委員会出席(10月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 ・委員自己紹介 ・コンソーシアム事業計画説明 ・職域プロジェクト事業計画説明 北海道ハイテクノロジー専門学校、大阪保健医療大学 ・意見交換 <p>②第2回コンソーシアム実施委員会出席(1月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 ・職域プロジェクト事業進捗状況説明 北海道ハイテクノロジー専門学校、大阪保健医療大学 ・スポーツトレーナー派遣の取り組みの報告 ・今後のスポーツ専門人材養成の在り方に関する討議 履修認定制度の活用、これまでに取組・成果を踏まえた展開のあり方 ・次回のスケジュールについて <p>③第3回コンソーシアム実施委員会及び成果報告会出席(2月24日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 ・職域プロジェクト事業成果報告 北海道ハイテクノロジー専門学校、大阪保健医療大学 ・コンソーシアム事業成果報告 ・意見交換 <第3回実施委員会> ・開会挨拶 ・今年度事業の振り返りと来年度への展開についての意見交換
<p>平成26年度以降 に想定している取 組み (事業終了後の取 組も含む)</p>	<p>○成果の活用Ⅰ</p> <p>リハビリ専門職である作業療法士においては、求人需要が非常に高い専門職であるにもかかわらず、理学療法士や言語聴覚士などの他のリハビリ専門職と比べて養成校への受験者数は非常に少ない。長年続いている雇用のミスマッチを解決するために、作業療法士が障害者スポーツ分野へ参入することは、若者にとって魅力ある職業の一つとなり得るのではないか。このような業界団体のニーズを踏まえ、本事業で開発されたモデルカリキュラムを大阪リハビリテーション専門学校作業療学科の正規課程に活用できるよう開発・実証を行う。また本学科は夜間3年生であることから、社会人の学び直し教育プログラムとしてキャリア転換に必要な学習システムとして構築していく。</p> <p>○成果の活用Ⅱ</p> <p>本事業で開発されたモデルカリキュラムの全国的な標準化を目指して、</p>

	<p>大阪府内以外の他の地域での実証が必要である。しかし、単に本事業で開発されたモデルカリキュラムを実証するだけでなく、障害者支援の専門家の多くを占め、かつスポーツの嗜好性は低い傾向にある女性を対象とした学び直し教育プログラムの開発・実証を行う。</p> <p>また、生涯スポーツへ向けての育成年代である障害児童専門家のキャリアアップを目標とした教育プログラムの開発・実証も行う。</p> <p>○高度人材育成システム 今年度本事業で開発されたモデルカリキュラムの受講生へ追跡調査を行い、フォローアップ教育システムを構築する。障害者スポーツ分野における中核的人材として必要な知識・技術は、達成度評価基準Ⅲまでとした（Ⅰ：関心がある Ⅱ経験がある Ⅲ助言があれば実践できる）。来年度以降は、障害者スポーツ分野における高度人材として必要な知識・技術を達成度評価基準Ⅳ～Ⅴ（Ⅳ：1人で実践できる Ⅴ：人に指導できる）と設定し、具体的なモデルカリキュラムと達成評価基準の開発・実証を行う。</p> <p>学習ユニット4やカテゴリーAに対するモデルカリキュラムの開発は平成27年度以降に行う。</p> <p>○ニーズ調査 本中核的専門人材の達成目標は、障害者が生涯にわたってスポーツへ参加できるよう支援できる人材である。しかし、現状では、生涯にわたってスポーツに参加している障害者はごく一部であり、多くの者がスポーツに関して参加する機会がないばかりでなく、苦手意識を持っている者も少なくない。そこで平成26年度は、生涯にわたってスポーツ参加している障害者へインタビュー調査を行い、障害者がスポーツを始めたきっかけや継続している要因を明らかにする。</p>
<p>その他</p>	<p>特になし</p>